

Clavinova[®]

MLP-51D/11D

取扱説明書

YAMAHA

このたびは、ヤマハ・クラビノーバMLP-51D/11Dをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

MLP-51D/11Dは、伝統に培われた楽器づくりと音楽教育の感性、そして先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、ヤマハ・ミュージック・ラボラトリーシステムの生徒用鍵盤楽器です。

ピアノの原理を応用した小気味良いタッチ感覚のAE鍵盤をはじめ、音色にはリアルで高品位なAWM音源、効率的なレッスンを可能にするコミュニケーション機能、幅広いジャンルに対応する16種類のリズム、自分の演奏を録音できるパフォーマンスメモリー機能、ディスクオーケストラコレクションによる自動演奏およびレッスン機能など、洗練された豊富な機能を採用し、楽しみながら演奏能力と感性を育て上げられますことを願い開発いたしました。

さらには、デジタル楽器の統一規格・MIDI端子も搭載しており、システムとしての将来性も充実しています。

本書では、クラビノーバの魅力を充分にご理解いただけますよう、正しい取り扱い方法を説明しています。ぜひ、ご一読ください。

もくじ

| | ページ | | ページ |
|----------------------------|-----|----------------------------|-----|
| ご使用の前に..... | 2 | 市販の録音済みディスクを再生してみましょう..... | 19 |
| 各部の名称とはたらき..... | 3 | 再生の方法（プレイバック）..... | 19 |
| 演奏前の準備..... | 6 | マイナスイオン機能でレッスン..... | 20 |
| 好きな音色で弾いてみましょう..... | 7 | 苦手なフレーズを繰り返しレッスン..... | 20 |
| いろいろな機能や効果 | | 打楽器を担当してみましょう..... | 21 |
| ペダル効果..... | 8 | MIDIでシステムを拡張..... | 22 |
| ブリリアンス機能..... | 8 | 仕様..... | 27 |
| リバーブ効果..... | 8 | エラーメッセージ一覧表..... | 28 |
| トランスポーズ（移調）機能..... | 9 | MIDIインプリメンテーションチャート..... | 29 |
| ピッチコントロール機能..... | 10 | アフターサービスと保証..... | 30 |
| コミュニケーション機能..... | 11 | | |
| リズムに合わせて弾いてみましょう..... | 12 | | |
| 自分の演奏を録音してみましょう..... | 13 | | |
| フロッピーディスクについて..... | 13 | | |
| ディスクフォーマットの方法（フォーマット）..... | 14 | | |
| 録音の方法（レコード）..... | 15 | | |
| 再生の方法（プレイバック）..... | 16 | | |
| ディスクコピーの方法（コピー）..... | 17 | | |
| 内容の消去（デリート）..... | 18 | | |

■ ご使用の前に

設置場所



次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

お取り扱い



落としたり、物をぶつかけたり、上に乗るなど、乱暴に扱わないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

電源の処理



ご使用後は電源スイッチを切ってください。

外装のお手入れ



お手入れは、乾いた布でカラぶきするか、汚れのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、ビニール製品を上に乗らないでください。

他の電気機器への影響



ラジオやテレビを近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生したり、誤動作することがあります。十分に離して使用してください。

保証書の手続き



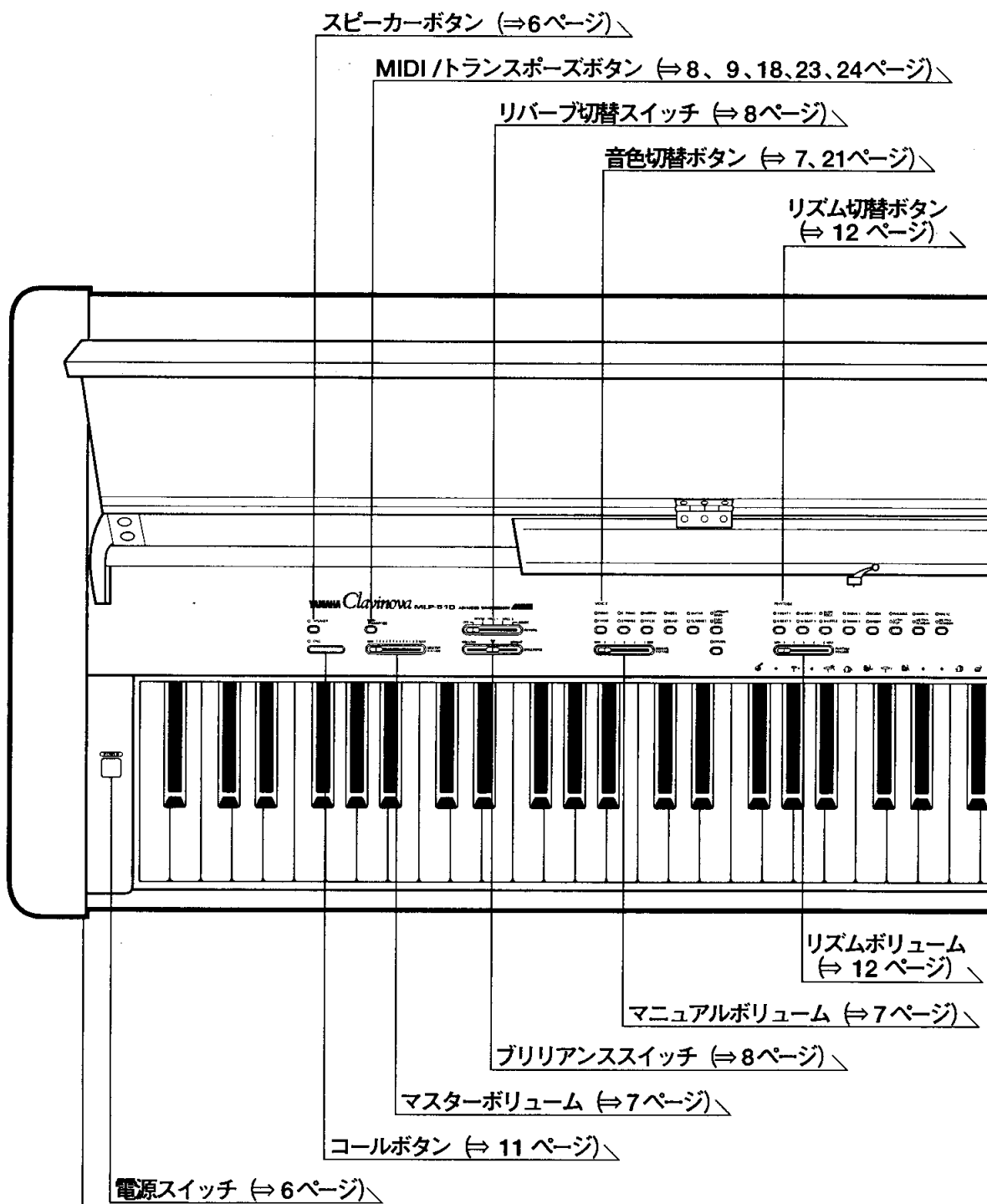
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

保管



この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

各部の 名称とはたらき



⇒ マークのところにくわしく説明してあります。

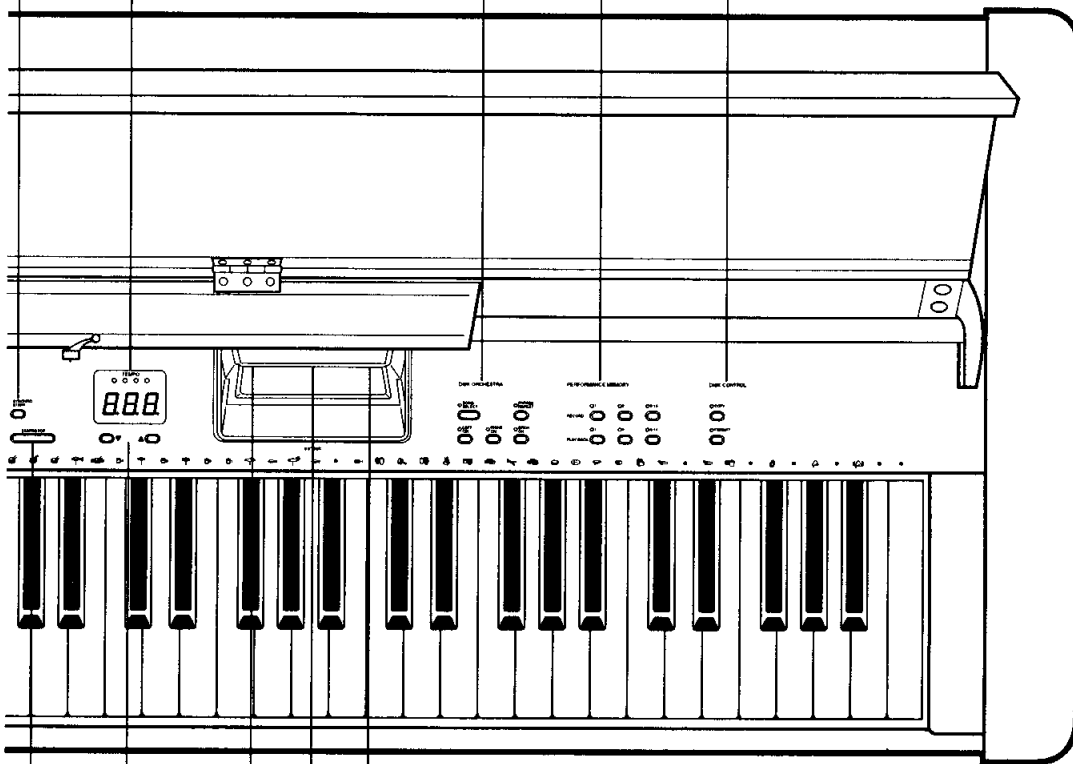
シンクロスタートボタン (⇒ 12 ページ) \

テンポ/小節数/拍子表示器 (⇒ 9、10、12、14~20、28ページ) \

ディスクオーケストラボタン (⇒ 15~20 ページ) \

パフォーマンスメモリーボタン (⇒ 15、16 ページ) \

ディスクコントロールボタン (⇒ 14、17、18 ページ) \



ディスク取り出しボタン (⇒ 13、14 ページ) \

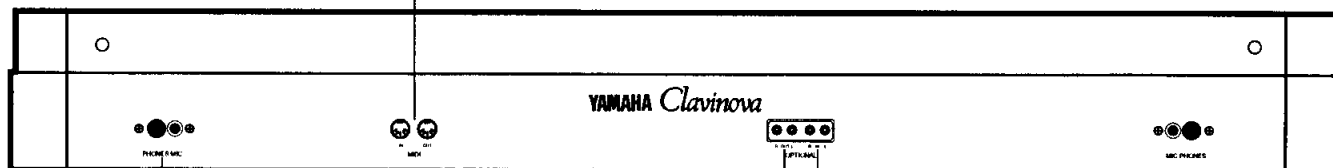
ディスク挿入口 (⇒ 13、14 ページ) \

ユーズランプ (⇒ 13 ページ) \

テンポボタン (⇒ 9、12、14~20 ページ) \

スタートストップボタン (⇒ 12 ページ) \

MIDI 端子 (⇒22ページ)



オプション入力端子

外部機器の音を、MLP-51D/11Dでいっしょに鳴らすことができます。

オプション出力端子

外部製品に、MLP-51D/11Dの音を送ることができます。

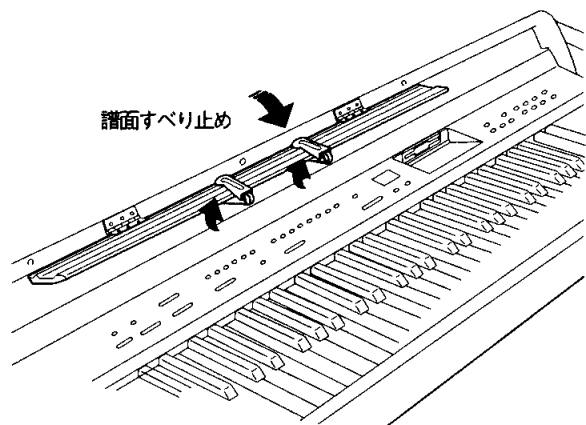
先生用ヘッドホン端子、マイク端子 (右側にもあります。)

生徒の側まで行って指導する場合には、ここにマイク付きヘッドホンを接続して、生徒とヘッドホンでやりとりします。

5

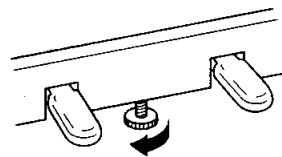
譜面立ての使い方

譜面立ては、鍵盤蓋を開けるたびに起こしてお使いください。また、譜面すべり止めを下図のような角度で立ててください。
※ 鍵盤蓋を閉める時は、譜面立ておよび譜面すべり止めを、必ず元の状態に戻してください。



アジャスターの調整

ご使用前に、ペダル部底面にあるアジャスターを回して床にぴったり付け、ペダル部を安定させてください。



演奏前の 準備

1. ヘッドホン端子に生徒用のヘッドホンを接続します。
(ヘッドホン端子はMLP-51D/11Dの底面左側にあります。)

2. 電源スイッチをオンにします。



- ★ 電源スイッチを押して約3秒くらいしてから、音を出せます。
- ★ 電源スイッチをもう一度押すと、電源が切れます。
- ★ 電源スイッチをオンにしたまま鍵盤蓋を閉めても、自動的に電源が切れますが、念のため使用後は電源を切ってください。
なお、オンにしたまま鍵盤蓋を閉めた場合は、再び鍵盤蓋を開けた時、自動的にオンになります。

3. ヘッドホンでなくMLP-51D/11D内蔵のスピーカーから音を出す場合は、スピーカースイッチをオンにします。

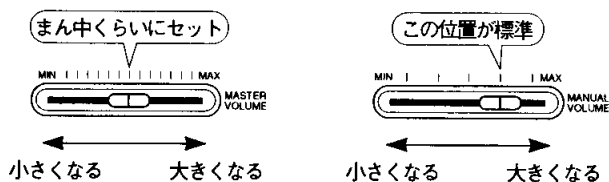
ランプが点灯



- ★ 通常はスピーカーオフの状態にしておきます。
- ★ 電源スイッチをオンにした時は、いつもスピーカーオフの状態になっています。

好きな音色で弾いてみましょう

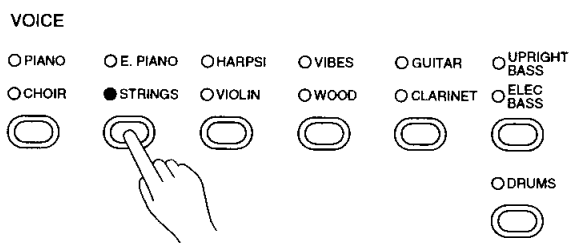
1. マスターボリュームとマニュアルボリュームで音量を調節します。



- ★ 鍵盤を押して音を聴きながら調節してください。
- ★ マスターボリュームが最小(MIN)の位置では音は出ません。

2. 音色を選んでください。

選んだ音色のランプが点灯



(この場合はストリングスが選ばれたことになります。)

- ★ 12種類の中から音色を選ぶことができます。希望する音色のボタンを押してください。同列の上段の音色から下段の音色に切り替える場合、または同列の下段の音色から上段の音色に切り替える場合は、もう1度そのボタンを押してください。
- ★ 音色を2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。
- ★ ドラムスを選ぶ場合は、21ページの“打楽器を担当してみましょう”を参照してください。

3. 弾いてみましょう。



いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

- ★ 同時発音数は16音 (16音ポリフォニック) です。
- ★ ピアノと同じように、弾く強さによって音の大小 (強弱) を表現できます。
- ★ 音色一覧表

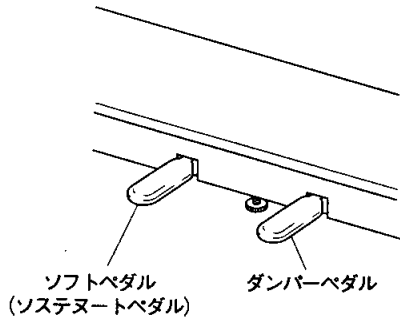
| | |
|------------|---|
| ピアノ | コンサートグランドピアノの音。 |
| エレクトリックピアノ | 電気ピアノの音。 |
| ハーブシコード | ハーブシコード (バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形といわれる鍵盤楽器) の音。 |
| パイプ | ビブラフォン (鉄琴の一種) の音。 |
| ギター | ガットギターの音。 |
| アップライトベース | ウッドベースの音。 |
| クワイア | 合唱の響きの音色。 |
| ストリングス | 弦楽器によるアンサンブルの音。 |
| バイオリン | バイオリンの音。 |
| ウッド | フルートの音色に似た木管楽器の音。 |
| クラリネット | クラリネット (一枚リードの木管楽器) の音。 |
| エレクトリックベース | 電気ベースの音。 |

- ★ MLP-51D/11Dにはペダル効果やリバーブ効果、トランスポーズ機能など様々な機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

いろいろな機能や効果

ペダル効果

スタンド部には2つのペダルがついており、それぞれに役割があります。なお、左側のソフトペダルは希望に応じて切り替え、ソステヌートペダルとして使用することもできます。各ペダルによる効果をうまく使い分けてください。



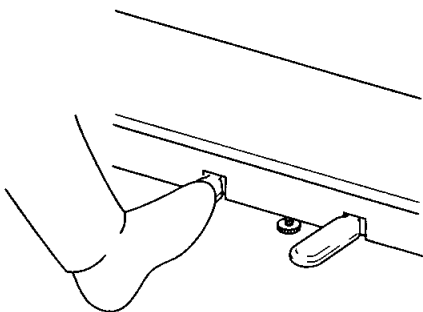
- ソフトペダルを踏むと.....音の響きが柔らかくなります
- ダンパーペダルを踏むと.....ドラムスを除く全ての音色に余韻がついて、響きが豊かになります (ダンパー効果)。
- ソフトペダルをソステヌートペダルに切り替えたうえで踏むと.....ペダルを踏んだ時に押えていた鍵盤の音だけに余韻がつかます (ソステヌート効果)。

ソフト/ソステヌート切替方法

① MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



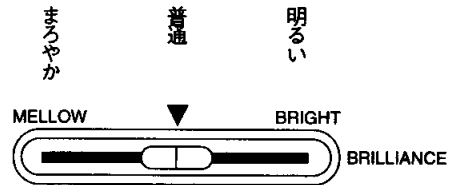
② ソフトペダルを踏みます。



- ★ ①②の操作をもう一度すると、ソフト効果に戻ります。
- ★ 電源スイッチをオンにした時は、いつもソフト効果が選択されています。

ブリリアンス機能

音の明るさ (音質) を3種類の中から選択できます。

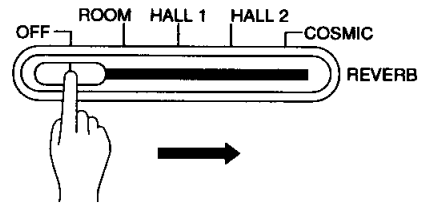


希望する音の明るさのところに切り替えてください。

★ ドラムスの音色にはブリリアンスの調節は働きません。

リバーブ効果

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。



リバーブ切替スイッチを、希望する響きのところに切り替えてください。

★ 切り替えによって次のように変わります。

オフ：リバーブはかかりません。

ルーム：響きやすい部屋の中で弾いた時のような音になります。

ホール1：小さめのコンサートホールで弾いた時のような音になります。

ホール2：大きめのコンサートホールで弾いた時のような音になります。

コズミック：こだまのような響きが得られます。

トランスポーズ (移調) 機能

押さえる鍵盤 (運指) を変えずにキーを変えることができます。合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキーを合わせたり、歌の伴奏をする時に歌う人のキーにすぐに合わせられるので便利です。

★ -6半音~+6半音 (表示は6) の範囲、半音単位でずらすことができます。つまり“ド”の音なら高い方に最大で“ファの#”まで、低い方も最大で“ファの#”までずらすことができます。

たとえば+5半音ずらすと



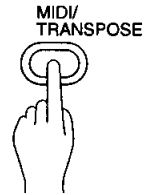
のように弾いたものが



のように鳴ります。

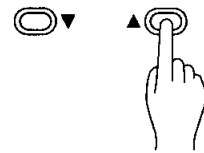
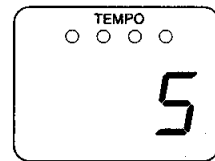
■ 移調の設定方法

① MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



② テンポボタンで移調量を指定します。

たとえば“ド”の音を“ファ”の音に変えたい時は、5半音高くすればよいわけですから値を“5”にします。



★ 電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さ (0) に戻っています。

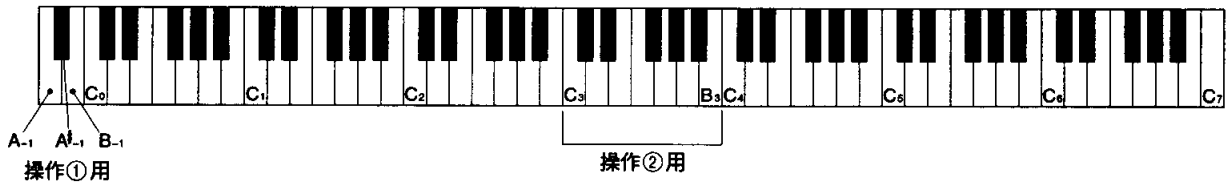
★ MIDI/トランスポーズボタンを押しながら▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、元の高さ (0) に戻ります。

ピッチコントロール機能

合奏の時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせます。

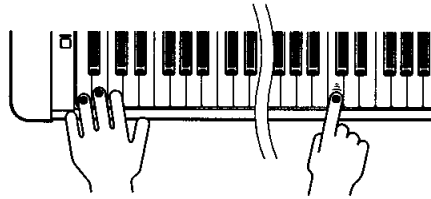
MLP-51D

■ 音程の合わせ方



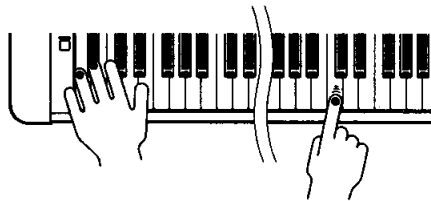
◆ 音程を上げる時

- ① 上の図に示したA-1とB-1の鍵盤を同時に押しながら、
- ② C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、合わせてください。



◆ 音程を下げる時

- ① 上の図に示したA-1とA#-1の鍵盤を同時に押しながら、
- ② C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、合わせてください。

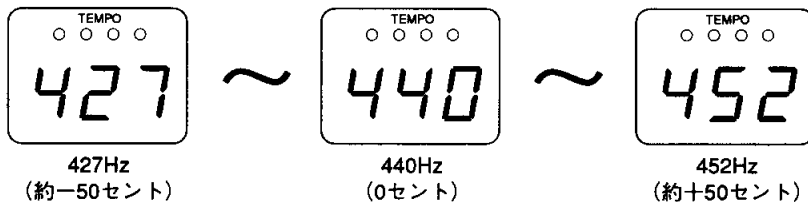


★ 電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。(A₃=440Hz)

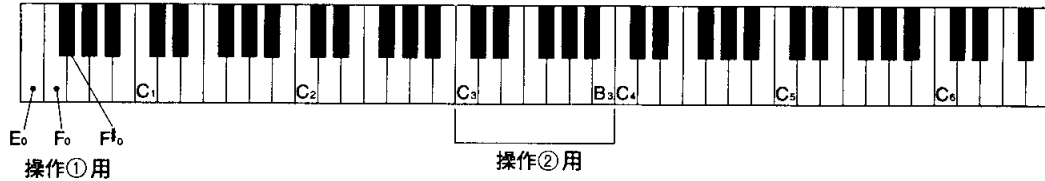
★ 元の高さ (A₃=440Hz) に戻す時は電源を入れなおすか、またはA-1、A#-1、B-1の3鍵を同時に押しながら、C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押してください。

★ A₃=427Hz (約-50セント) ～452Hz (約+50セント) の範囲、約3セントステップで設定でき、設定中は下図のようにピッチが表示され、設定後、約3秒でテンポ表示に戻ります。

(参考：100セント=半音)



■ 音程の合わせ方

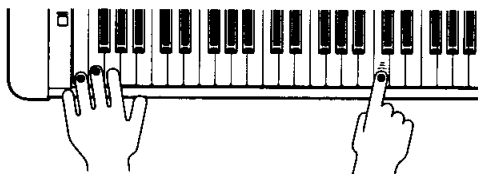


◆ 音程を上げる時

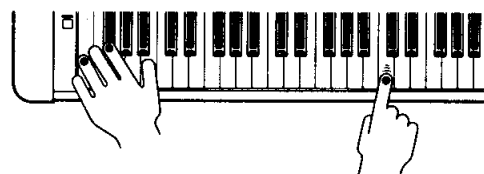
- ① 上の図に示したE0とF0の鍵盤を同時に押しながら、
- ② C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、合わせてください。

◆ 音程を下げる時

- ① 上の図に示したE0とF#0の鍵盤を同時に押しながら、
- ② C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、合わせてください。



音程を上げる時



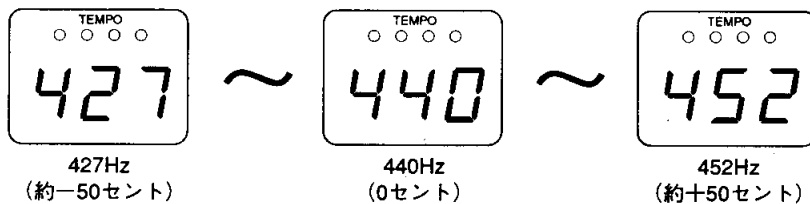
音程を下げる時

★ 電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。(A3=440Hz)

★ 元の高さ (A3=440Hz) に戻す時は電源を入れなおすか、またはE0、F0、F#0の3鍵を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押してください。

★ A3=427Hz (約-50セント) ～452Hz (約+50セント) の範囲、約3セントステップで設定でき、設定中は下図のようにピッチが表示され、設定後、約3秒でテンポ表示に戻ります。

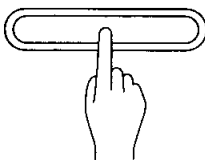
(参考：100セント=半音)



コミュニケーション機能

生徒が先生に質問がある場合に、席を立ったり、大きな声を出さなくてもいいように、コミュニケーション機能があります。コミュニケーション機能は、先生と会話するための機能です。ここでは、生徒が先生と会話をするまでの手順を紹介합니다。

押すと点灯する ● CALL



- ① 生徒は、先生を呼び出すためコールボタンを押します。
- ② 先生は調整卓上のランプの点滅により、生徒からの呼び出しがあったことを知り、点滅しているボタンを押します。
- ③ 生徒のコールボタンのランプが消灯し、先生と生徒は互いにマイク付きヘッドホンで会話をします。
- ④ 先生が調整卓上でもう一度ボタンを押した時点で、会話は終了です。

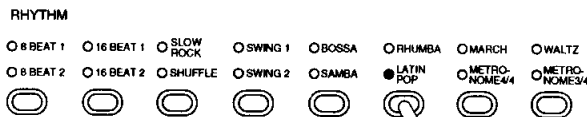
★ 誤ってコールボタンを押してしまった場合は、もう一度押せば呼び出しを解除できます。(コールボタンのランプが消灯すると共に、調整卓のランプも消灯します。)

★ その他詳細につきましては、調整卓の取扱説明書を参照してください。

リズムに合わせて弾いてみましょう

1. リズムを選んでください。

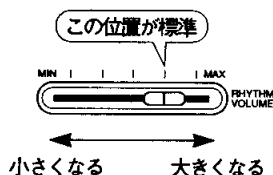
選んだリズムのランプが点灯



(この場合はラテンポップが選ばれたことになります。)

- ★ 16種類の中からリズムを選ぶことができます。希望するリズムのボタンを押してください。同列の上段のリズムから下段のリズムに切り替える場合、または同列の下段のリズムから上段のリズムに切り替える場合は、もう1度そのボタンを押してください。
- ★ リズムを2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

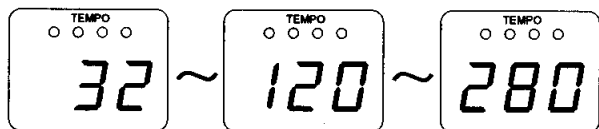
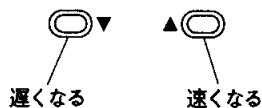
2. リズムボリュームでリズムの音量を調節します。



- ★ リズムボリュームが最小(MIN)の位置にあると、リズムの音は出ません。

3. リズムの速さを指定します。

テンポ/小節数/拍子表示器で1分間の拍数を見ながら設定できますが、曲の速さが楽譜に書かれていない場合など、テンポがあらかじめ判らない時は、4.の操作の後、実際に音を聴きながら設定してください。



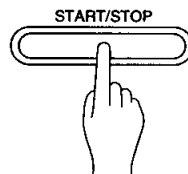
♩ = 32 (最も遅い) ♩ = 120 ♩ = 280 (最も速い)

リズムをスタートさせた後は、拍子ランプの点灯が左から順に、1拍ごとに移動します。

- ★ 電源スイッチをオンにした時は、いつも♩=120に戻っています。また、▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、選ばれているリズムの標準テンポに戻ります。

4. リズムをスタートさせます。スタート方法には2種類ありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

すぐにスタートさせる場合.....スタート/ストップボタンを押す。



演奏の開始と共にスタート

させる場合.....シンクロスタートボタンを押す。



シンクロスタート待ちの時、拍子ランプの左端(赤)が4分音符のタイミングで点滅して、リズムの速さを示します。

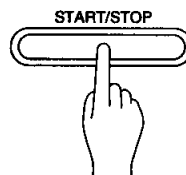
- ★ リズムを鳴らしても、演奏音の同時発音数は16音です。

5. 演奏中、別のリズムに切り替えることもできます。

- ★ リズムを切り替えても、切り替え前のリズムのテンポが維持されます。

6. リズムを停止させます。停止方法には2種類あります。

すぐに停止させる場合.....スタート/ストップボタンを押す。



シンクロスタート待ちの状態にして

停止させる場合.....シンクロスタートボタンを押す。



自分の演奏を録音してみましょ (パフォーマンスメモリー)

録音用のフロッピーディスクを使用することにより、自分の演奏を録音できます。録音できるのはリズムをスタートさせてから停止させるまでの間です。

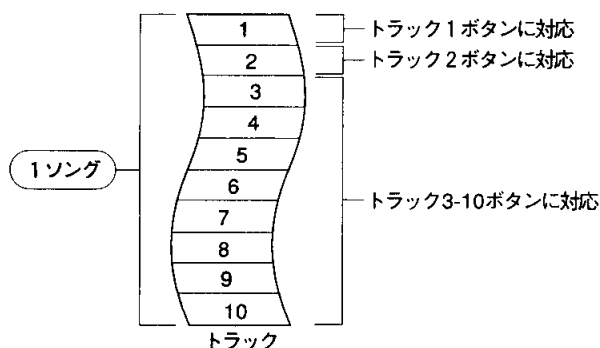
“1”、“2”、“3-10”に分かれた10トラックがありますが、再生時には“3-10”トラックは同時に再生されます。

1曲をいくつかの演奏パートに分けて、トラック1にはピアノ音のパートを、2にはギター音のパートを……、というように多重録音していくことができます。つまり、10トラック全てを使って1曲を仕上げることが可能です。

ソングとは？

“1”、“2”、“3-10”の合計10トラックに録音した内容を1まとめにして“ソング”と呼びます。

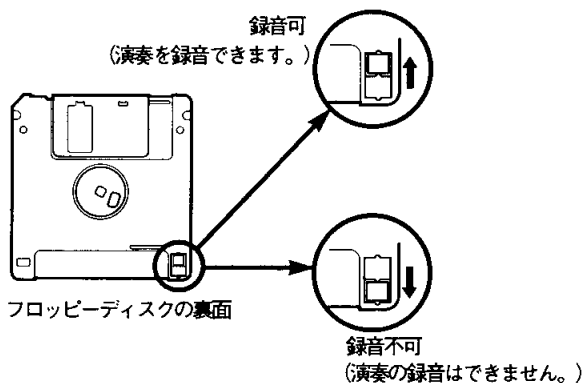
フロッピーディスクには、“ソング”単位で録音していきます。最大で60ソングまで録音できますが、1曲の演奏時間が長い場合や、1曲の中でたくさんの機能を使った場合などは60曲より少なくなってしまう場合があります。



- ・ 直射日光の当たる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- ・ 濡らしたり、湿ったところに置かないでください。
- ・ 内部のディスク表面に手を触れないでください。
- ・ 使用後はケースに入れて保管してください。

◆録音した演奏の保護について

フロッピーディスクには、再録音できないようにするツメがあります。大切な演奏はこのツメを録音不可の状態にしておきます。そうすることにより、再生はできますが誤って再録音できないようになります。



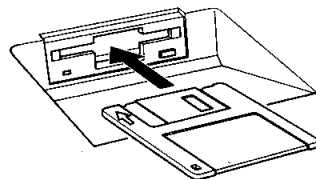
◆絶対にしてはいけないこと

ディスク挿入口の左下にあるユーズランプが点灯している時は、絶対に電源を切ったり、ディスクを取り出さないでください。MLP-51D/11Dの故障の原因となるばかりでなく、ディスクに録音されている演奏情報をこわしてしまいます。

※ ユーズランプが点灯している最中は、MLP-51D/11Dとフロッピーディスクの間でデータがやりとりされています。

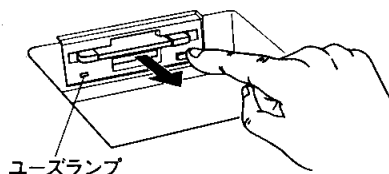
◆フロッピーディスクの入れかた

ディスク挿入口へ、ディスクの表面を上にして、ていねいに差し込んでください。



◆フロッピーディスクの取り出しかた

ユーズランプが消えていることを確認した上で、ディスク取り出しボタンを押します。



フロッピーディスクについて

パフォーマンスメモリー機能で演奏情報を録音するには、パソコンなどで使われているフロッピーディスクを使用します。

付属のディスクは、まだ演奏情報が何も入っていない生ディスクです。この生ディスクに自分の演奏を録音していきます。また、市販のフロッピーディスクを使えば、自分の演奏の録音をどんどん増やしていけます。これに対して、すでに録音済みのディスクを再生するのがディスクオーケストラです。大切な演奏の録音をこわしてしまったり、誤って消してしまわないために、次のことを守って正しく取り扱ってください。

◆MLP-51D/11Dで使用するディスク

3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスクを使用してください。

◆フロッピーディスクの取り扱い

- ・ テレビやスピーカーなど、磁気の強い物に近づけないでください。
- ・ 物をのせたり、折り曲げたりしないでください。

- ・ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認し、取り出してください。
- ・ディスク取り出しボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中でひっかかり、取り出せなくなる場合があります。無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、MLP-51D/11Dの故障の原因になります。
- ・ディスク取り出しボタンが中途半端な状態になったり、フロッピーディスクが完全に出ない場合は、もう一度ディスク取り出しボタンをしっかりと押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、再度ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押しなおして、取り出してください。

◆ディスクドライブの保守について

- ・MLP-51D/11Dに内蔵のディスクドライブのヘッドは、定期的にクリーニングが必要です。このヘッドが汚れますと、ディスクが正常に動作しなくなることがあります。
- ・クリーニングには、市販の3.5インチ用ヘッドクリーニングディスク（別売り）をご用意ください。（デパートやパソコンショップ等で購入可能です。）
- ・クリーニングは半年に1回程度行ってください。
- ・ヘッドクリーニングディスクをディスクドライブに挿入すると、自動的にクリーニングが行われます。ディスクの回転が止まったら、クリーニングディスクを取り出してください。（クリーニング方法の詳細は、ヘッドクリーニングディスクの説明書等をご覧ください。）

◆ディスク挿入口へ異物などを入れないで

ディスク挿入口にフロッピーディスク以外のものを入れないようにご注意ください。ディスクがこわれたり、MLP-51D/11Dの故障の原因になります。

ディスクフォーマットの方法(フォーマット)

付属または市販のフロッピーディスクはそのままでは使えません。

フォーマット（初期化）といって、データの整理棚を作る操作をして、初めて演奏を録音できるようになります。

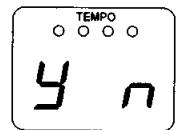
ただし、すでに使用中で演奏情報の入っているフロッピーディスクをフォーマットしてしまわないよう、十分注意してください。（フォーマットを実行すると、フロッピーディスクの内容は全て消えてしまいます。）

① フロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

② フォーマットボタンを押します。

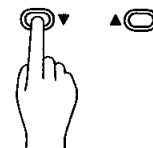
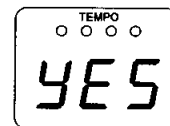


ランプが点滅を始め、テンポ/小節数/拍子表示器に y: YES、n: NO が表示されます。



中止したい時はスタート/ストップボタンを押します。

③ テンポボタンの▼ボタンを押します。



中止したい時は▲ボタンを押します。

④ もう一度フォーマットボタンを押して、フォーマットを実行します。

しばらく時間がかかりますが、“F80”の表示がテンポ表示に戻るまでお待ちください。



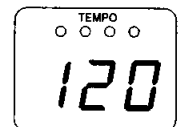
ランプが点灯に変わり、テンポ/小節数/拍子表示器はカウント表示になり、数値が1つずつ小さくなっていきます。



⑤ フォーマットが終了すると……



ランプが消灯し、テンポ/小節数/拍子表示器はテンポ表示に戻ります。



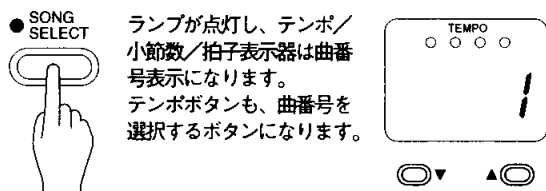
例: ♩ = 120

★ ディスクオーケストラコレクションのディスクやピアノプレーヤー用のディスクを差し込んでも、フォーマットできません。

録音の方法 (レコード)

フロッピーディスクのフォーマットが終わったら、自分の演奏を録音してみましょう。

- ① フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。
- ② ソングセレクトボタンを押します。



- ③ テンポボタンで曲番号を選びます。



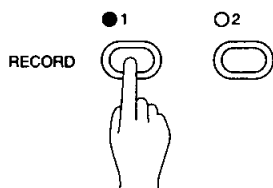
- ④ リズムの選択
録音する曲に合ったリズムを選びます。

- ⑤ 音色の指定
音色を選びます。

- ⑥ 音量の調節
手弾き音、リズム音の各音量を調整します。
★ マスターボリューム調整による全体の音量については、記憶されません。演奏しやすい音量にすればOKです。

- ⑦ トラックの選択
＜1,2トラックの場合＞
録音するトラックのレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態でシンクロスタート待ちの状態です。

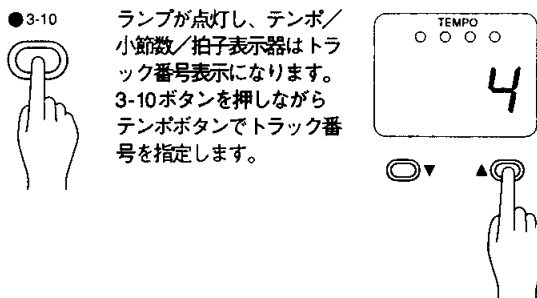
録音するトラックのランプを点灯させる。



＜3-10トラックの場合＞

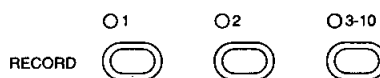
3-10トラックの選択は、レコード3-10ボタンを押しながらテンポボタンで録音したいトラック番号を指定します。レコード3-10ボタンを押している間だけ、テンポ/小節数/拍子表示器はトラック番号表示になります。トラック番号を指定した後、レコード3-10ボタンを離すと4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。

この状態でシンクロスタート待ちの状態です。



★ カウントの音量はリズムボリュームに連動します。従って、リズムボリュームが最小(MIN)の位置にあるとカウント音は鳴りません。

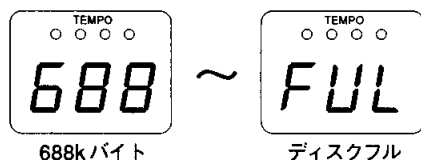
- ⑧ テンポ調節
カウント音を聴きながら調節できます。
- ⑨ 必要に応じて……
プリリアンススイッチを好みの音の明るさの位置にしておきます。
- ⑩ 演奏の開始
シンクロスタート待ちの場合は、演奏を開始した時点から録音が始まります。
- ⑪ 必要に応じて……
演奏の途中でリズムやテンポ、音色などを変更することができます。これらの操作も実際に録音されます。
- ⑫ 演奏の終了
スタート/ストップボタンを押して演奏を終了します。テンポ/小節数/拍子表示器の「rEc」表示がテンポ表示に戻った時点で録音終了です。
録音が終了すると、録音していたトラックのランプが消灯します。



★ 記録内容は次のとおりです。なお、録音中に設定を変えた場合、実際にそのタイミングで記録されます。

- ・ 鍵盤情報
- ・ 音色選択
- ・ リズム選択、テンポ
- ・ プリリアンススイッチの設定
- ・ ペダル操作 (ダンパー、ソフト)
- ・ マニュアルボリューム、リズムボリューム
- ・ リバース切替スイッチの効果選択

★ メモリー容量は、バイト数にして約688kバイトです。レコードボタンを押した時、残りバイト数が688kバイトから表示され、残容量なしでディスクフルの表示になります。



★ 録音した内容は、録音を終了した時点で自動的にフロッピーディスクに保存されます。

誤って、ディスクを入れないで録音してしまった場合、その内容は次の操作をした時点で消えてしまいます。

- ・電源スイッチをオフにした時
 - ・ディスクを入れてソングセレクトボタンを押した時
- 保存したい場合は、フロッピーディスクへコピーの操作を行ってください。(ディスクを入れて17ページ④の操作から行ってください。)

★トラックごとに別のリズムで録音することはできません。10トラックで1曲が基本となります。

★録音済みの曲番号に再録音する場合は、デリートの操作をして、その曲番号の内容を消去してから録音してください。(18ページ参照)

★録音済みのトラックに再録音すると、録音を開始した時点で、そのトラックの前の内容が消えます。

多重録音

多重録音は、もともとレコード制作の世界から生まれたテクニックです。まず最初に、リズムを決めてトラック1に“基本にするパート”を録音。次に、それを再生しそれに合わせてトラック2に別のパートを録音。さらにトラック3-10にも……。これで完了です。最後に全てを一斉に再生できますから、あたかも大勢で一度に演奏しているように聞こえます。

- ①レコード1ボタンをオン、そして録音。
- ②プレイバック1ボタンとレコード2ボタンをオン、そしてトラック2に録音。
- ③プレイバック1および2ボタンをオン、レコード3-10ボタンを押した上でトラック3へ録音できる状態にし、トラック3に録音。
- ④プレイバック1,2,3-10ボタンをオン、そしてレコード3-10ボタンを押した上でトラック4へ録音できる状態にし、トラック4に録音。
- ⑤以上のような要領で録音していきます。

★以下の内容の初期設定は全トラック共通です。初期設定を変えたい場合は、該当するトラックのレコードボタンを押してから、それぞれの設定を変えてください。(ただし、レコードボタンを押した後に鍵盤やスタートボタンを押すと、そのトラックの全ての内容が書き換わってしまいますので、初期設定を変える場合は充分注意してください。)

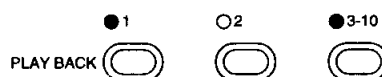
設定が終わったら、もう一度そのレコードボタンを押してランプを消灯させます。

- ・テンポ
- ・リバーブ切替スイッチの効果選択

再生の方法 (プレイバック)

録音した自分の演奏を再生してみましょう。

- ①再生するフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。
- ②ソングセレクトボタンを押した上で、テンポボタンで再生したい曲の番号を指定します。指定した曲のトラックが録音済みであれば、そのトラックのプレイバックボタンのランプが点灯します。



③トラックの選択

再生させたくないトラックがある場合は、そのトラックのプレイバックボタンを押してランプを消灯させます。

★3から10までのトラックは同時に再生されます。トラックごとに再生させることはできません。

④再生の開始

スタート/ストップボタンを押すと、すぐに再生が始まります。また、シンクロスタートボタンを使って押鍵と同時に再生させることもできます。

⑤音量の調節

各音量を調節できます。



⑥必要に応じて……

再生音に合わせて、音色を指定し他のパートを演奏することも可能です。手弾き音の音量は、マニュアルボリュームで調節してください。



⑦再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止しますが、途中でスタート/ストップボタンを押して終了させることも可能です。

★再生終了後は再生待ちの状態になります。再生待ちを解除する時は、ソングセレクトボタンを2回押して、プレイバックボタンのランプを消灯させてください。

★テンポやリズムを変えて再生させることも可能です。

★同時発音数は、リズムが8音で、演奏と再生音は合わせて16音です。

コピーが開始されます。コピーを実行したくない場合は▲ボタンを押します。

ディスクコピーの方法 (コピー)

曲作りの時や、曲のバックアップをとっておきたい時に、曲番号単位でコピーすることができます。同じディスク内での別の曲番号へのコピー、別のフロッピーディスクへのコピーのどちらでも可能です。

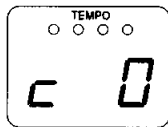
同じディスク内での別の曲番号へのコピー

- ① フロッピーディスクが録音可 (13ページ参照) の状態になっていることを確認した上で、ディスク挿入口に差し込みます。
- ② ソングセレクトボタンを押してランプを点灯させた上で、テンポボタンでコピー元の曲番号を指定します。
- ③ ソングセレクトボタンをもう一度押してランプを消灯させます。
- ④ コピーボタンを押します。

17



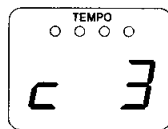
コピーボタンを押すと、ランプが点滅を始め、テンポ/小節数/拍子表示器は、c0の表示になります。



- ⑤ テンポボタンで、コピー先の曲番号を指定します。
c1～c60の範囲の曲番号を指定してください。c1～c60の範囲の曲番号は別ディスクへのコピー向けの番号です。



たとえば3番にコピーしたいのなら▲ボタンを3回押してc3にします。



★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことにより、コピーを解除できます。

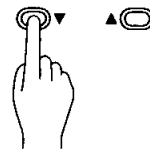
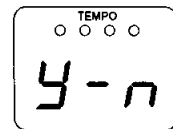
- ⑥ もう一度コピーボタンを押します。
しばらく時間がかかります。

●COPY



コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。

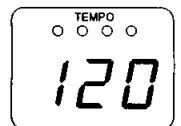
★ここで次のような表示が出る時は、コピー先の曲番号にすでに録音済みです。コピー元の曲の内容に書き換えてもいい場合のみ、▼ボタンを押してください。



- ⑦ コピーが終了すると……



ランプが消灯し、テンポ/小節数/拍子表示器はテンポ表示に戻ります。



例: J = 120

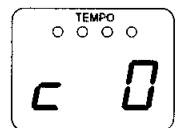
別のディスクへのコピー

- ① コピー元の曲が入っているフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。
- ② ソングセレクトボタンを押してランプを点灯させた上で、テンポボタンでコピー元の曲番号を指定します。
- ③ ソングセレクトボタンをもう一度押してランプを消灯させます。
- ④ コピーボタンを押します。

●COPY



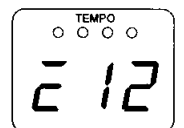
コピーボタンを押すと、ランプが点滅を始め、テンポ/小節数/拍子表示器は、c0の表示になります。



- ⑤ テンポボタンで、コピー先の曲番号を指定します。
別ディスクへのコピーが可能なように、c1～c60の範囲の曲番号を指定してください。(たとえば、別ディスクに曲番号12としてコピーする場合はc12にします。)



ボタンを押し続けると、連続的に変化します。



★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことにより、コピーを解除できます。

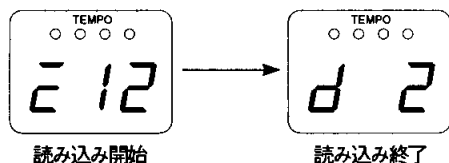
⑥ もう一度コピーボタンを押します。

すると、コピー元のデータが、一時的に本体のメモリーに読み込まれます。しばらく時間がかかりますが、読み込みが終るまでお待ちください。

●COPY



コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。



読み込み開始

読み込み終了

⑦ 読み込みが終わったら、コピー元のフロッピーディスクを取り出します。

⑧ コピー先のフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

正しいディスクが挿入されると、テンポ/小節数/拍子表示器にy/nの確認表示が出ます。

⑨ ▼ボタンを押します。

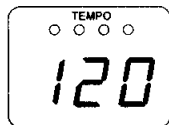
★ コピーを実行したくない場合は▲ボタンを押します。

⑩ コピーが終了すると……

○COPY



ランプが消灯し、テンポ/小節数/拍子表示器はテンポ表示に戻ります。



例：♩ = 120

★ コピー元のソングの演奏時間が長かったり、1曲の中でたくさんの機能を使っている場合は、一度にコピーできないことがあります。その場合操作⑨の後、d1（コピー元のディスク挿入要求）の表示になります。この時は、次の操作をしてください。

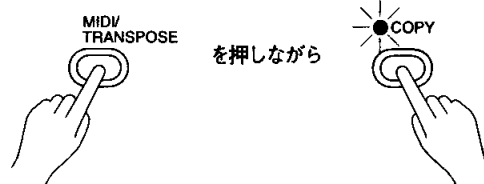
d1が表示されたら……コピー元のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d2表示になるまで待つ。

d2が表示されたら……コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込んで、▼ボタンを押す。

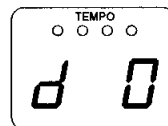
テンポ表示に戻ったら……コピーは終了です。

① 消去する曲が入ったフロッピーディスクを、録音可の状態になっていることを確認した上で、ディスク挿入口に差し込みます。

② MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、コピーボタンを押します。



コピーボタンのランプが点滅を始め、テンポ/小節数/拍子表示器はd0の表示になります。

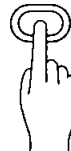


③ テンポボタンで消去したい曲番号を選びます。

★ この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことにより、デリートを解除できます。

④ コピーボタンを押します。

●COPY



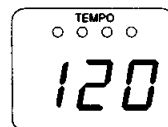
コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。

⑤ 消去が終了すると……

○COPY



ランプが消灯し、テンポ/小節数/拍子表示器はテンポ表示に戻ります。



例：♩ = 120

★ フロッピーディスクに録音されている内容を全て消してしまいたい時は、フォーマットの操作を行います。14ページの“ディスクフォーマットの方法”を参照してください。

内容の消去 (デリート)

曲番号単位で、その内容を消去することができます。この操作を実行すると、録音内容を復活させることはできませんので、誤って消去してしまわないように注意してください。

★ ソングセレクトボタンのランプが点灯している時は消去できません。

市販の録音済みディスクを再生してみましよう (ディスクオーケストラ)

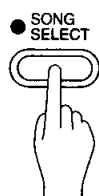
クラビノーバのための音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」を使えば、オーケストラの伴奏に合わせてピアノ演奏を楽しんだり、右手と左手を別々に練習することができます。

再生の方法 (プレイバック)

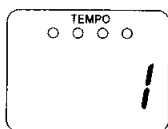
「ディスクオーケストラコレクション」のディスクを、MLP-51D/11Dで自動演奏させてみましょう。

① 「ディスクオーケストラコレクション」のフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

② ソングセレクトボタンを押します。



● SONG SELECT
ソングセレクトボタンを押すと、ランプが点灯し、テンポ/小節数/拍子表示器は、曲番号表示になります。



③ テンポボタンで、再生させたい曲の番号を指定します。



▼ボタンを押すごとに、曲番号が1つずつ小さくなります。



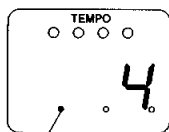
▲ボタンを押すごとに、曲番号が1つずつ大きくなります。

★ 曲番号0を選ぶと、全曲の繰り返しになります。

④ 再生の開始

スタート/ストップボタンを押すと、演奏が始まります。カウント音の後に演奏が始まる曲もあります。

★ テンポ/小節数/拍子表示器の下側左の点が点灯している時は、ディスク準備中ですのでスタートの操作しても演奏は始まりません。



この点が点灯している時はスタートしない。

⑤ 音量の調節

各ボリュームで各音量を調節できます。

全体.....マスターボリューム

右手パートと左手パート...マニュアルボリューム

オーケストラパート.....MIDI/トランスポーズボタンを
押しながら、マニュアルボ
リューム

リズムパート.....リズムボリューム

★ 曲の音量バランスによっては、ボリュームが最小(MIN)までいかないうちに音が消えてしまうパートがあります。

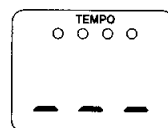
★ 右手パートと左手パートは、ボリュームを最小(MIN)にしても音は出ます。

⑥ 再生の終了

曲の最後まで再生されて自動的に停止します。途中で停止させる時は、スタート/ストップボタンを押します。

★ 再生時のテンポを変更したい場合には、再生を開始する前に、ソングセレクトボタンを押した上で、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、テンポボタンで設定します。

★ 収録されている曲によっては、テンポが表示されない場合があります。その場合、テンポ/小節数/拍子表示器に次のように表示されます。



マイナスワン機能でレッスン

ピアノ演奏の右手パート、左手パートを別々に練習できます。

- ① ソングセレクトボタンを押した上で（ソングセレクトボタンのランプを点灯させる）、テンポボタンで練習したい曲の番号を指定します。
- ② レッスンしたいパートのオンボタンを押してランプを消灯させます。

右手パートを練習する時……

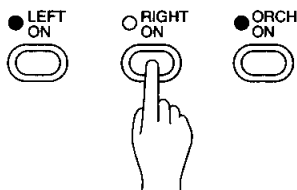
ライトオンボタンを押してランプを消す。

左手パートを練習する時……

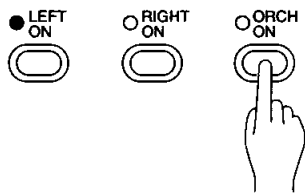
レフトオンボタンを押してランプを消す。

右手と左手の両パートを同時に練習する時……

ライトオンボタン、レフトオンボタンを押して、両方のランプを消す。



- ③ 練習の際、オーケストラパートを鳴らしたくない場合は、オーケストラオンボタンを押してランプを消灯させます。



④ 練習の開始

スタート/ストップボタンを押すと、演奏が始まります。ランプを消灯させたパートの演奏音は聞こえません。曲に合わせて、オフにしたパートを練習してみましょう。

★ 各パートのボタンは、再生の途中でもオン/オフできます。

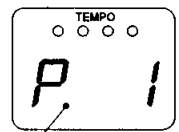
苦手なフレーズを繰り返しレッスン

1曲の中の、あるフレーズだけを繰り返し再生させることができます。繰り返し練習してマスターしましょう。

- ① ソングセレクトボタンを押した上で（ソングセレクトボタンのランプを点灯させる）、テンポボタンで練習したい曲の番号を指定します。
- ② フレーズリピートボタンを押します。



フレーズリピートボタンを押すと、ランプが点灯し、テンポ/小節数/拍子表示器は、フレーズ番号表示になります。



この点が点灯している時はスタートしません。

- ③ テンポボタンで、繰り返し練習したいフレーズの番号を指定します。

フレーズ番号は、「ディスクオーケストラコレクション」に付属の楽譜に記載してあります。

④ 練習の開始

スタート/ストップボタンを押します。1小節のカウント音の後に、選んだフレーズより再生が始まり、次のフレーズまでの間が繰り返し再生されます。繰り返し練習しましょう。

★ 曲によっては、カウント音なしで始まる場合があります。

★ 繰り返しの回からは、カウント音は鳴りません。

⑤ フレーズリピート練習の終了

スタート/ストップボタンを押して停止させます。完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

打楽器を担当して みましょう

鍵盤の上方に44種類（MLP-11Dは42種類）の打楽器等の絵があります。音色をドラムスにして押鍵することにより、これらの各打楽器等の音を出すことができます。

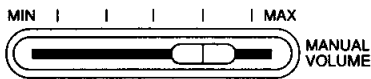
① 音色切替ボタンのドラムスを押します。

VOICE

○ PIANO ○ E. PIANO ○ HARPSI ○ VIBES ○ GUITAR ○ UPRIGHT BASS
○ CHOIR ○ STRINGS ○ VIOLIN ○ WOOD ○ CLARINET ○ ELEC BASS



ランプを点灯させる。



● DRUMS



② 演奏します。

F[♯]₂～A[♯]₆（MLP-11DはF[♯]₂～F[♯]₆）の鍵盤に各打楽器が割り付けられていますので、目的の鍵盤を押して演奏します。

MLP-51D

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------------|----------------|----------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|-------|-------|--------|-------|----------|----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|---------------|---------------|-------|
| ブレイッシュェ(ロー) | クラッシュシンバル(ソフト) | ライトシンバル(カップ) | スネアドラムナリム(ソフト) | バスドラム | ハイハットベダル | ハイハットオープン | ハイハットクロスフーマル | タム 4 | タム 3 | タム 2 | タム 1 | クラッシュシンバル | ライドシンバル | シンセタム 3 | シンセタム 2 | シンセタム 1 | コンガ(ロー) | コンガ(ハイ) | ボンゴ(ハイ) | メトロノーム | カバサ | クラベス | カステネット | カウベル | クイーカ(ロー) | クイーカ(ハイ) | ティンバル(ハイ) | ティンバル(ロー) | ハンドクラフス | アムコ(ロー) | アムコ(ハイ) | ボンゴ(ロー) | タンバリン | トライアングル(クローズ) | トライアングル(オープン) | |
| | バスドラム(ライト) | スネアドラムナリム(ソフト) | スネアドラムナリム(ハード) | スネアドラム(ソフト) | スネアドラム(ハード) | スネアドラム(エコー) | スネアドラム(ソフト) | スネアドラム(ハード) | スネアドラム(ソフト) | スネアドラム(ハード) | スネアドラム(ソフト) | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム |

MLP-11D

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----------------|----------------|----------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|-------|-------|--------|-------|----------|----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|-------|-------|-------|
| ブレイッシュェ(ロー) | クラッシュシンバル(ソフト) | ライトシンバル(カップ) | スネアドラムナリム(ソフト) | バスドラム | ハイハットベダル | ハイハットオープン | ハイハットクロスフーマル | タム 4 | タム 3 | タム 2 | タム 1 | クラッシュシンバル | ライドシンバル | シンセタム 3 | シンセタム 2 | シンセタム 1 | コンガ(ロー) | コンガ(ハイ) | ボンゴ(ハイ) | メトロノーム | カバサ | クラベス | カステネット | カウベル | クイーカ(ロー) | クイーカ(ハイ) | ティンバル(ハイ) | ティンバル(ロー) | ハンドクラフス | アムコ(ロー) | アムコ(ハイ) | ボンゴ(ロー) | タンバリン | | |
| | バスドラム(ライト) | スネアドラムナリム(ソフト) | スネアドラムナリム(ハード) | スネアドラム(ソフト) | スネアドラム(ハード) | スネアドラム(エコー) | スネアドラム(ソフト) | スネアドラム(ハード) | スネアドラム(ソフト) | スネアドラム(ハード) | スネアドラム(ソフト) | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム | シンセタム |

・シンセタムは、シンセサイザードラム（エレクトロニックドラム）を意味します。それ以外はアコースティックドラムを意味します。

MIDIで システムを拡張

MLP-51D/11DはMIDI機能（MIDI端子）をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法などを順に紹介します。

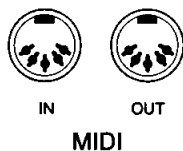
MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス（Musical Instrument Digital Interface）の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。

（MIDI製品には必ずMIDI端子があります。）

本機のMIDI端子

本機には、次のように2種類のMIDI端子があります。（MIDI端子の種類には3種類あり、他のMIDI製品にはこれ以外にMIDI THRUという端子が付いていることがあります。）



MIDI OUT（メディアアウト）

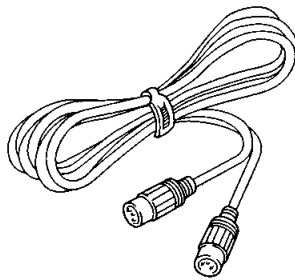
MLP-51D/11Dでの演奏内容等が出力されます。

MIDI IN（ミディイン）

他のMIDI製品からの演奏内容等を入力できます。

★ MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIケーブル（MIDI-15: 15m）¥3,000
（MIDI-03: 3m）¥1,100

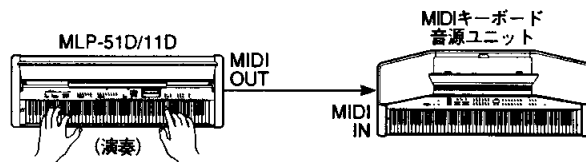


MIDIでできること

MIDIで何ができるかは、接続した機器との相性で決まります。簡単にいえば、両製品に共通したMIDI機能なら、とりあえず可能性ありということになります。MIDI製品と一口にいても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

MIDI OUT端子を使ってできること

◆ MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



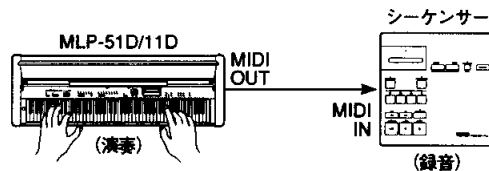
- ★ MLP-51D/11Dで演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★ MLP-51D/11Dで音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。
- ★ この他に下記のように情報を出力する機能があります。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。
 - ・ペダルを操作した時.....ペダルを踏んだ/離れたを意味する情報を出力
 - ・パネルデータバルクダンプリクエストを受信した時.....パネル上の設定状態を出力

※ MIDIとは直接は関係ありませんが、相手側の音をMLP-51D/11Dのオプション端子（OPTIONAL IN）から入力して、MLP-51D/11Dのスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

※ MLP-51D/11DもMIDIキーボードです。したがって相手側のMIDIキーボードとして、もう1台のMLP-51D/11Dを用いることも考えられます。

※ 音源ユニットは簡単にいうとキーボードから鍵盤を除いたもの（=音源まわりを残したもの）だと思ってください。

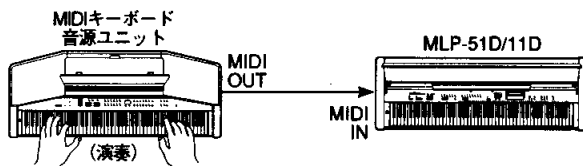
◆ MIDIシーケンサーを接続した場合



★ MLP-51D/11Dでの演奏内容を、MIDIシーケンサー（ディスクレコーダーDRC-20、ディスクオーケストラモジュールDOM-30等）に録音できます。MIDIシーケンサーに録音すれば、録音容量を増やすことができます。もちろんMLP-51D/11Dに記録した場合と同様に、後でそれを自由に再生できます。

★ MIDIシーケンサーには、演奏内容だけでなく、音色の切替情報やイクスクループ情報（後述）を記録できるものもあります。

MIDI IN端子を使ってできること



◆ MIDIキーボードに接続した場合

★ 外部のMIDIキーボードで演奏すると、MLP-51D/11DもMLP-51D/11D自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。

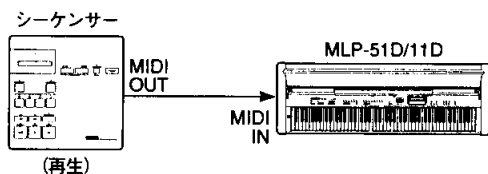
★ 外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、MLP-51D/11Dの音色も同時に切り替わります。

★この他に下記のような情報を入力してMLP-51D/11Dをコントロール可能です。

- ・ペダル効果をコントロールする情報
- ・ボリュームをコントロールする情報
- ・パネルデータバルクランプのリクエスト情報

※MIDIとは直接は関係ありませんが、演奏側キーボードの音をMLP-51D/11Dのオプション端子 (OPTIONAL IN) から入力して、MLP-51D/11Dのスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

※MLP-51D/11DもMIDIキーボードです。したがって外部のMIDIキーボードに、もう1台のMLP-51D/11Dを用いることも考えられます。



◆MIDIシーケンサーに接続した場合

★MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、MLP-51D/11Dの音色で再生できます。

MIDI関係の設定・機能

MIDIの機能を使う場合にもやはり設定が必要です。

◆MIDIチャンネルの設定

MIDIの世界にも、テレビと同じようにチャンネルがあります。MIDIには1から16チャンネルまであり (テレビの場合は1から62ですね)、ほとんどのMIDI情報*に“この情報は〇〇チャンネルだよ”という信号が含まれています。そもそもなぜチャンネルが必要かという、たとえばシーケンサーを再生した場合、シーケンサーのMIDI OUT端子からはいくつかのチャンネルの情報が次々に出力されます。そして1本のMIDIケーブルの中をいくつかのチャンネルの情報がいっしょに流れます。幸いにして各情報にはMIDIチャンネルが付けられていますので、受信側の製品でチャンネルを指定してやれば、必要なそのチャンネルの情報だけを選んで受け取ることができるわけです。

そして、最も一般的なMIDIキーボードとMIDIキーボードの接続の場合にも、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させなければ、受信側で情報を受け取ることができませんので、受信側で当然音は鳴りません。

*チャンネルの信号が含まれていると都合の悪い情報には、チャンネル信号は逆に含まれていません。

送信チャンネルの設定方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②ピアノ/クワイアボタンを押して、そのままMIDI/トランスポートボタンだけは離さずに、
- ③テンポボタンを押して設定します。
 - ・送信チャンネル1に切り替える場合.....S1

↓

・送信チャンネル16に切り替える場合.....S16

★電源スイッチをオンにした時は、いつも送信チャンネル=1が選ばれています。

受信チャンネルの設定方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②エレクトリックピアノ/ストリングスボタンを押して、そのままMIDI/トランスポートボタンだけは離さずに、
- ③テンポボタンを押して設定します。

- ・オムニオン+受信チャンネル1に切り替える場合.....r1
- ↓
- 16に切り替える場合.....r16

・オムニオンに切り替える場合.....ALL

※オムニオンは、チャンネル設定に関係なく、どのチャンネルのボイスメッセージ (鍵盤、ペダル、音色スイッチ等) でも受信する状態です。

★電源スイッチをオンにした時は、いつも受信チャンネル=オムニオンが選ばれています。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、MLP-51D/11Dで演奏したにもかかわらずMLP-51D/11D自身では鳴らなくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製品側だけで鳴らしたい場合に、MLP-51D/11Dで音が出ないようにするためのものです。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②ハーブシコード/バイオリンボタンを押します。
 - ・ローカルコントロールオフにする場合
ハーブシコード/バイオリンのランプを点灯させる。
 - ・ローカルコントロールオンに戻す場合
ハーブシコード/バイオリンのランプを消灯させる。

★MLP-51D/11Dを受信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもローカルコントロールオンが選ばれています。

◆プログラムチェンジオン/オフの切替

プログラムチェンジオフという状態にすると、MLP-51D/11Dで音色を切り替えても、MIDI OUT端子へ音色の切替情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子から音色切替情報を受けてもMLP-51D/11Dの音色は切り替わらなくなります。

つまり、MLP-51D/11Dだけで単独に音色を切り替えたい場合には、プログラムチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②パイプウッドボタンを押します。
 - ・プログラムチェンジオフにする場合
パイプウッドのランプを点灯させる。
 - ・プログラムチェンジオンに戻す場合
パイプウッドのランプを消灯させる。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもプログラムチェンジオンが選ばれています。

◆コントロールチェンジオン/オフの切替

コントロールチェンジオフという状態にすると、MLP-51D/11Dでペダルなどを操作しても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けても、MLP-51D/11Dはそれに反応しなくなります。

つまり、MLP-51D/11Dだけで単独にペダルを操作したい場合には、コントロールチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②ギター/クラリネットボタンを押します。
 - ・コントロールチェンジオフにする場合
ギター/クラリネットのランプを点灯させる。
 - ・コントロールチェンジオンに戻す場合
ギター/クラリネットのランプを消灯させる。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもコントロールチェンジオンが選ばれています。

◆マルチティンバーモードオン/オフの切替

マルチティンバーモードオンという状態になると、チャンネル1~10のどのチャンネルの情報でも受信できるようになります。

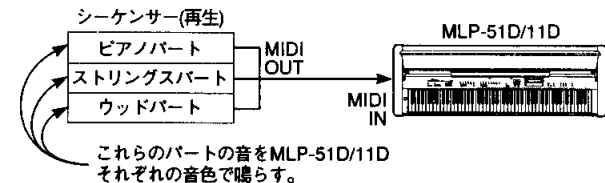
たとえばシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報をMLP-51D/11Dに受信させ、それぞれの音色で同時に鳴らしたい時に、マルチティンバーモードオンにします。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②アップライトベース/エレクトリックベースボタンを押します。
 - ・マルチティンバーモードオンにする場合
アップライトベース/エレクトリックベースのランプを点灯させる。
 - ・マルチティンバーモードオフに戻す場合
アップライトベース/エレクトリックベースのランプを消灯させる。

★MLP-51D/11Dを送信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★マルチティンバーモードの代表的な使用例は次のとおりです。



つまり(別々のチャンネルで)シーケンサーに記録された様々なパートの演奏を、MLP-51D/11D 1台で再生できます。(つまり、アンサンブルを楽しむことができます。)

★電源スイッチをオンにした時は、いつもマルチティンバーモードオフが選ばれています。

★同時に発音できるのは16音までです。

97 (アゴゴ・ロー)、99 (アゴゴ・ハイ)、100 (ボンゴ・ロー)、102 (タンバリン)、104 (トライアングル・クロス)、106 (トライアングル・オープン)
v=0~127 (1~127: キーオン, 0: キーオフ)
*1はMLP-51Dのみ

ベロシティ 0vvvvvv

②コントロールチェンジ: 各ペダル操作等をした時に送信します。

ステータス 1011nnnn (BnH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
コントロールNo. 0ccccccc c=7 (マニュアルボリューム)、64 (ダンパー)、66 (ソステヌート)、67 (ソフト)

コントロール値 0vvvvvvv
ボリューム
v=64 (最小)、111 (-3dB)、127 (最大)
ダンパー、ソステヌート、ソフト
v=0 (オフ)、127 (オン)

③プログラムチェンジ: 音色を切り替えた時に送信します。

ステータス 1100nnnn (CnH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
プログラムNo. 0ppppppp p=0 (ピアノ)、1 (クワイア)、2 (エレクトリックピアノ)、3 (ストリングス)、4 (ハーブシコード)、5 (バイオリン)、6 (パイプ)、7 (ウッド)、8 (ギター)、9 (クラリネット)、10 (アップライトベース)、11 (エレクトリックベース)、22 (ドラム)

1-2.システムインフォメーション

◆システムリアルタイムメッセージ

①タイミングクロック: 常に送信します。

ステータス 11111000 (F8H)

②スタート: リズムをスタートさせると送信します。

ステータス 11111010 (FAH)

③ストップ: リズムをストップさせると送信します。

ステータス 11111100 (FCH)

④アクティブセンシング: 約200msecごとに1回送信します。

ステータス 11111110 (FEH)

◆システムイクスクループメッセージ

①パネルデータバルクダンブ:

パネルデータバルクダンブリクエストを受信した時に送信します。

ステータス 11110000 (F0H) "システムイクスクループ"
YAMAHA ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
サブステータス 0000nnnn (0nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
フォーマットNo. 01111100 (7CH) "パネルデータバルクダンブ"
バイトカウント 00000000 (00H)
バイトカウント 0bbbbbbb

01010011 (53H) "S"
01001011 (4BH) "K"
00100000 (20H) スペース
00100000 (20H) スペース
01011101 (4DH) "M"
01011100 (4CH) "L"
01010000 (50H) "P"
00110101 (35H) "5"
00110001 (31H) "1"
01000100 (44H) "D"

バージョンNo. 00000001 (01H)

00000000 (00H)

データ 0ccccccc

データ 0ccccccc

チェックサム 0seeeeeee

EOX 11110111 (F7H)

パネルデータ

②モデルIDコードバルクダンブ:

モデルIDコードバルクダンブリクエストを受信した時に送信します。

ステータス 11110000 (F0H) "システムイクスクループ"
YAMAHA ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"

MIDIデータフォーマット

MIDIデータフォーマットを読める方はご覧ください。MLP-51D/11DのMIDI仕様を素早く調べたり、細かく知るうえで役立つことがあります。

1. 送信データ

1-1.チャンネルインフォメーション

◆チャンネルボイスメッセージ

①ノートオン/オフ: 鍵盤を押した時に送信します。

ステータス 1001nnnn (9nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
ノートNo. 0kkkkkkk MLP-51D k=21 (A-1) ~108 (C7)
MLP-11D k=28 (E0) ~103 (G6)
ベロシティ 0vvvvvvv v=0~127 (1~127: キーオン, 0: キーオフ)

ドラムの場合

ステータス 1001nnnn (9nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
ノートNo. 0kkkkkkk k=54 (ブラッシュ・ロール)、56 (ハイハット・クローズ・ヘヴィ)、58 (クラッシュシンバル・ライト)、59 (バスドラム・ライト)、60 (スネアドラム・リム・ヘヴィ)、61 (ライドシンバル・カップ)、62 (スネアドラム・リム・ライト)、65 (バスドラム)、66 (リムショット)、67 (スネアドラム・ヘヴィ)、68 (ブラッシュ・ショット)、69 (スネアドラム・ライト)、70 (ハイハット・ペダル)、71 (スネアドラム・エコ)、72 (タム4)、73 (ハイハット・クロス)、74 (タム3)、75 (ハイハット・オープン)、76 (タム2)、77 (タム1)、78 (ライドシンバル)、79 (シンセタム3)、80 (クラッシュシンバル)、81 (シンセタム2)、83 (シンセタム1)、84 (コンガ・ロー)、85 (カバサ)、86 (コンガ・ハイ)、87 (メトロノーム)、88 (ボンゴ)、89 (ティンバレ・ロー)、90 (クラベス)、91 (ティンバレ・バシ)、92 (カステネット)、93 (クワイ・カ・ロー)、94 (カウベル)、95 (クワイ・カ・ハイ)、96 (ハンドクラップス)、

サブステータス 0000nnnn(0nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 フォーマットNo. 01111101(7DH) "モデルIDコードバルクダンプ"
 バイトカウント 00000000(00H)
 バイトカウント 00010000(10H)
 01010011(53H) "S"
 01001011(4BH) "K"
 00100000(20H) スペース
 00100000(20H) スペース
 01011101(4DH) "M"
 01011100(4CH) "L"
 01010000(50H) "P"
 00110101(35H) "5"
 00110001(31H) "1"
 01000100(44H) "D"
 バージョンNo. 00000010(01H)
 00000000(00H)
 00100000(20H)
 00100000(20H)
 00100000(20H)
 00100000(20H)
 チェックサム 00000000
 EOX 11110111(F7H)

③ プリリアンス・セットアップデータ :

プリリアンススイッチを切り替えた時に送信します。
 ステータス 11110000(F0H) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
 機種ID 01001001(73H) "クラビノーバ"
 機種ID 0kkkkkkk k=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 特殊操作子 00010001(11H)
 チャンネル 00000000(00H) "チャンネル毎"
 コントロ-No. 01011000(58H) "プリリアンス"
 コントロ-M値 00000000 d=0 (ノーマル)、1 (メロウ)、2 (ブライト)
 EOX 11110111(F7H)

④ リバーブ・セットアップデータ :

リバーブ切替スイッチを切り替えた時に送信します。
 ステータス 11110000(F0H) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
 機種ID 01001001(73H) "クラビノーバ"
 機種ID 0kkkkkkk k=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 特殊操作子 00010001(11H)
 チャンネル 00001111(0FH) "チャンネル16 コントロール"
 コントロ-No. 01011001(59H) "リバーブ"
 コントロ-M値 00000000 d=0 (オフ)、1 (ルーム)、2 (ホール1)
 3 (ホール2)、4 (コズミック)
 EOX 11110111(F7H)

⑤ パフォーマンスメモリー・セットアップデータ :

パフォーマンスメモリーの各操作をした時に送信します。
 ステータス 11110000(F0H) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
 機種ID 01001001(73H) "クラビノーバ"
 機種ID 0kkkkkkk k=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 特殊操作子 00010001(11H)
 チャンネル 0000nnnn 0=0 (トラック1)、1 (トラック2)、2 (トラック3-10)
 コントロ-No. 01111111(7FH) "パフォーマンスメモリー"
 コントロ-M値 00000000 d=32 (録音オン)、33 (録音オフ)、
 34 (再生オン)、35 (再生オフ)
 EOX 11110111(F7H)

⑥ テンポ・セットアップデータ :

テンポ変更の操作をした時に送信します。
 ステータス 11110000(F0H) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
 機種ID 01001001(73H) "クラビノーバ"
 機種ID 0kkkkkkk k=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 特殊操作子 00010001(11H)
 チャンネル 00001111(0FH) "チャンネル16 コントロール"
 コントロ-No. 00000000 テンポ下位

コントロ-M値 00000000 テンポ上位
 EOX 11110111(F7H)

⑦ リズム・セットアップデータ :

リズムを切り替えた時に送信します。
 ステータス 11110000(F0H) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
 機種ID 01001001(73H) "クラビノーバ"
 機種ID 0kkkkkkk k=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 特殊操作子 00010001(11H)
 チャンネル 00001110(0EH) "チャンネル15 リズム"
 コントロ-No. 00010101(15H) リズムNo.変更
 コントロ-M値 00000000 d=0 (8ビート1)、1 (8ビート2)、2 (16ビート1)、
 3 (16ビート2)、4 (スローロック)、5 (シャッフル)、6 (スウィング1)、7 (スウィング2)、8 (ボサノバ)、9 (サンバ)、10 (ルンバ)、11 (ラテンポップ)、12 (マーチ)、13 (メトロノーム4/4)、
 14 (ワルツ)、15 (メトロノーム3/4)
 EOX 11110111(F7H)

⑧ リズムボリューム・セットアップデータ :

リズムボリューム変更の操作をした時に送信します。
 ステータス 11110000(F0H) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
 機種ID 01001001(73H) "クラビノーバ"
 機種ID 0kkkkkkk k=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 特殊操作子 00010001(11H)
 チャンネル 00001110(0EH) "チャンネル15 リズム"
 コントロ-No. 00010101(1AH) リズムボリューム変更
 コントロ-M値 00000000 d=0 (最小) ~127 (最大)
 EOX 11110111(F7H)

2 受信データ

2-1.チャンネルインフォメーション

◆チャンネルボイスメッセージ

① ノートオン/オフ :

ノートNo.によって発音の音程が決まり、ベロシティによって音量が決まります。また、ドラムについては、ノートNo.によって打楽器音が決まり、ベロシティによって音量が決まります。
 データについては、"送信データ"の項を参照。

② ノートオフ :

ノートオフをステータス8nHで送り出す機器との対応のためです。
 ステータス 1000nnnn(8nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 ノートNo. 0kkkkkkk k=21 (A-1) ~108 (C7)
 ベロシティ 0vvvvvv v=無視します

③ コントロールチェンジ : メッセージに従って各対応をします。

ステータス 1011nnnn(8nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 コントロールNo. 0ccccccc c=7 (マニュアルボリューム)、11 (エクスプレッション)、64 (ダンパー)、66 (ソステヌート)、67 (ソフト)
 コントロール値 0vvvvvvv ボリューム、エクスプレッション
 v=0 (最小)、111 (-3dB)、127 (最大)
 ダンパー、ソステヌート、ソフト
 v=0~63 (オフ)、64~127 (オン)

④ プログラムチェンジ :

プログラムNo.によって音色が決まります。指定番号よりプログラムNo.の大きいメッセージは無視します。

ステータス 1100nnnn(8nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 プログラムNo. 0ppppppp p=0 (ピアノ)、1 (クワイア)、2 (エレクトリックピアノ)、3 (ストリングス)、4 (ハーブシコード)、5 (バイオリン)、6 (バイブ)、7 (ウッド)、8 (ギター)、9 (クラリネット)、10 (アップライトベース)、11 (エレクトリックベース)、22 (ドラム)

◆チャンネルモードメッセージ

メッセージに従って各対応をします。

ステータス 1011nnnn(BnH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 コントロールNo. 0ccccccc c=121 (リセットオールコントローラー)、
 122 (ローカルコントロール)、
 123 (オールノートオフ)、
 124 (オムニオフ/オールノートオフ)、
 125 (オムニオン/オールノートオフ)
 コントロール値 0vvvvvv v=ローカルコントロール v=0 (オフ)、127 (オン)
 ローカルコントロール以外 v=0

* リセットオールコントローラーおよびオールノートオフは、オムニオフまたはマルチティンバーモードオン時のみ認識します。

2-2. システムインフォメーション

◆システムリアルタイムメッセージ

① スタート：リズムがスタートします。

ステータス 11111010 (FAH)

② ストップ：リズムがストップします。

ステータス 11111100 (FCH)

③ アクティブセンシング：

受信すると、センシングを開始します。その後400msecの間ステータスもデータもこない場合には、発音を強制的に停止させます。

ステータス 11111110 (FEH)

◆システムイクスクルーシブメッセージ

① パネルデータバルクダンプリクエスト：

このメッセージを受信すると、パネルデータを送信します。

ステータス 11110000 (FOH) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
 サブステータス 0010nnnn(2nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 フォーマットNo. 01111100 (7CH) "パネルデータバルクダンプリクエスト"
 EOX 11110111 (F7H)

② モデルIDコードバルクダンプリクエスト：

このメッセージを受信すると、モデルIDコードを送信します。

ステータス 11110000 (FOH) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
 サブステータス 0010nnnn(2nH) n=0 (チャンネルNo.1) ~15 (チャンネルNo.16)
 フォーマットNo. 01111101 (7DH) "モデルIDコードバルクダンプリクエスト"
 EOX 11110111 (F7H)

③ パネルバルクデータ：

このメッセージを受信すると、パネル上の各設定が変わります (マスターボリュームは動きません)。データについては、「送信データ」の項を参照。

④ マルチティンバーモードオフ：

このメッセージを受信すると、マルチティンバーモードオフになります。

ステータス 11110000 (FOH) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
 SK ID 01110011 (73H)
 機種ID 0iiiiiii i=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 データ 00010011 (13H)
 EOX 11110111 (F7H)

⑤ マルチティンバーモードオン：

このメッセージを受信すると、各モードになります。

ステータス 11110000 (FOH) "システムイクスクルーシブ"
 YAMAHA ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
 SK ID 01110011 (73H)
 機種ID 0iiiiiii i=1 (共通ID)、46 (MLP-51D/11D)
 データ 00010101 (15H) マルチティンバーモードオン
 EOX 11110111 (F7H)

⑥ プリリアンス・セットアップデータ：

このメッセージを受信すると、プリリアンスの設定が制御されます ("送信データ"の項を参照)。ただしツマミは動きません。

⑦ リバース・セットアップデータ：

このメッセージを受信すると、リバースの設定が制御されます ("送信データ"の項を参照)。ただしツマミは動きません。

⑧ パフォーマンスメモリー・セットアップデータ：

このメッセージを受信すると、パフォーマンスメモリーの各ボタンがオン/オフされます ("送信データ"の項を参照)。

⑩ テンポ・セットアップデータ：

このメッセージを受信すると、テンポが変更されます ("送信データ"の項を参照)。

⑪ リズム・セットアップデータ：

このメッセージを受信すると、リズムが切り替わります ("送信データ"の項を参照)。

⑫ リズムボリューム・セットアップデータ：

このメッセージを受信すると、リズムの音量が制御されます ("送信データ"の項を参照)。ただしツマミは動きません。

仕様

● 鍵盤：

MLP-51D：88鍵（A-1～C7）イニシャルタッチ付

MLP-11D：76鍵（E0～G6）イニシャルタッチ付

● 音色：

ピアノ、エレクトリックピアノ、ハープシコード、パイプ、ギター、アップライトベース、クワイア、ストリングス、バイオリン、ウッド、クラリネット、エレクトリックベース

ドラムス（打楽器音 MLP-51Dは44種類、11Dは42種類）；

バスドラム（ノーマル、ライト）、スネアドラム（ヘヴィ、ライト、エコー）、リムショット、スネアドラム+リム（ヘヴィ、ライト）、ブラッシュ（ロール、ショット）、ハイハット（ペダル、クローズヘヴィ、クローズ、オープン）、タム1～4（ノーマル）、シンセタム1～3、ライドシンバル（ノーマル、カップ）、クラッシュシンバル（ノーマル、ライト）、コンガ（ロー、ハイ）、カバサ、ボンゴ（ロー、ハイ）、クラベス、カスタネット、カウベル、ティンバル（ロー、ハイ）、クイーカ（ロー、ハイ）、ハンドクラップス、アゴゴ（ロー、ハイ）、タンバリン、トライアングル（クローズ、オープン）^{*}、メトロノーム

*1はMLP-51Dのみ

コントロール；マニュアルボリューム

● 効果・機能：

プリリアンス、リバーブ、トランスポーズ、ピッチコントロール、ソフト/ノステヌート、ダンパー

● リズム（16種類）：

8ビート（1、2）、16ビート（1、2）、スローロック、シャッフル、スウィング（1、2）、ボサノバ、サンバ、ルンバ、ラテンポップ、マーチ、ワルツ、メトロノーム（4/4、3/4）

コントロール；スタート/ストップ、シンクロススタート、テンポコントロール、テンポ/小節数/拍子表示器、リズムボリューム

● パフォーマンスメモリー：

10トラック録音/再生（3-10トラックは同時再生）

記録容量；約688kバイト、最大60曲

記録媒体；3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク

コントロール；レコード（1、2、3-10）、プレイバック（1、2、3-10）

● ディスクオーケストラコントロール：

ソングセレクト、フレーズリピート、オーケストラオン、レフトオン、ライトオン、

● ディスクコントロール：

コピー、フォーマット

● その他コントロール：

電源スイッチ、マスターボリューム、MIDI/トランスポーズ、スピーカー、コール

● 付属端子：

生徒用ヘッドホン端子、先生用ヘッドホン端子（×2）、マイク端子（×3）、MIDI端子（IN,OUT）、オプション端子（IN L, IN R, OUT L, OUT R）

● メインアンプ：10W×2

● スピーカー：16cm×2

● 定格電源：AC100V 50/60Hz

● 消費電力：33W

● 外装：

MLP-51D：仕上げ；ブラックローズウッド調仕上げ、
間口；139.0cm、奥行；48.0cm、
高さ；80.9cm、重量；59.0kg

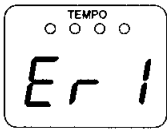
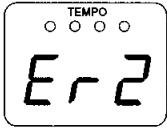
MLP-11D：仕上げ；ブラックローズウッド調仕上げ、
間口；122.6cm、奥行；48.0cm、
高さ；80.9cm、重量；54.5kg

● 装備：鍵盤蓋、折りたたみ式譜面立て

エラーメッセージ一覧表

28

録音や再生時に不適当な操作を行うと、テンポ/小節数/拍子表示器にエラーメッセージが表示されます。この表示が出た時には、原因を確認した上で処置を施してください。

| 表 示 | 原 因 | 処 置 |
|---|-------------------------------------|---|
|  | 1. ディスクの不良 2. ディスク作動時に大きな振動があった。 | 1. ディスクを交換してください。 2. ユーズランプが点灯している時は、振動を与えないでください。 |
|  | ディスクが録音不可の状態になっている | ディスクのツメを動かして録音できる状態にしてください。 |

MLP-51D/11D

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1992.7.1
Version: 1.0

| ファンクション… | | 送信 | 受信 | 備考 |
|----------------|---|----------------------------|----------------------------|---|
| ベーシック チャンネル | 電源ON時 設定可能 | 1チャンネル 1~16チャンネル | 1チャンネル 1~16チャンネル | |
| モード | 電源ON時 メッセージ 代用 | モード3 × ***** | モード1 オムニ・オン、オムニ・オフ × | |
| ノート ナンバー | 音域 | 21~108 ***** | 21~108 21~108 | |
| ベロシティ | ノート・オン ノート・オフ | ○9nH,v=1~127 ×9nH,v=0 | ○v=1~127 × | |
| アフター タッチ | キー別 チャンネル別 | × × | × × | |
| ピッチ・ベンダー | | × | × | |
| コントロール チェンジ | 07 11 64 66 67 121 | ○ × ○ ○ ○ × | ○ ○ ○ ○ ○ ○ | ボリューム エクスプレッションペダル ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リセットオールコントローラー ※ |
| プログラム チェンジ | 設定可能範囲 | ○0~11、22 ***** | ○0~11、22 0~11、22 | |
| エクスクルーシブ | | ○ | ○ | |
| コモン | ソング・ポジション ソング・セレクト チューン | × × × | × × × | |
| リアル タイム | クロック コマンド | ○ ○ | × ○ | |
| その他 | ローカルON/OFF オールノート・オフ アケイブ・センシング リセット | × × ○ × | ○ ○ (123~125) ○ × | ※ |

備考： ※121および123のみオムニ・オフまたはマルチティンバーモード・オン時に受信可能。

モード1:オムニ・オン、ポリ
モード3:オムニ・オフ、ポリ

モード2:オムニ・オン、モノ
モード4:オムニ・オフ、モノ

○:あり
×:なし

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

●補修性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

| | |
|-----------------------------------|---|
| 北海道サービスセンター | 〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 513-5036 |
| 仙台サービスセンター | 〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236-0249 |
| 首都圏サービスセンター | 〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100 |
| 東京サービスステーション (*お持ち込み修理のみお取り扱い) | 〒108 東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488-6625 |
| 浜松サービスセンター | 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL (053) 465-6711 |
| 名古屋サービスセンター | 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652-2230 |
| 大阪サービスセンター | 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL (06) 877-5262 |
| 四国サービスセンター | 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL (0878) 22-3045 |
| 広島サービスセンター | 〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL (082) 874-3787 |
| 九州サービスセンター | 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134 |
| 【本社】 カスタマーサービス部 | 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL (053) 465-1158 |

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
営業課 TEL (011) 512-6114

仙台支店 / 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
営業課 TEL (022) 222-6144

東京支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL (03) 5488-5442

関東支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL (03) 5488-1680

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
営業推進課 TEL (052) 201-5145

大阪支店 / 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
EL普及課 TEL (06) 252-2390

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
営業課 TEL (082) 244-3748

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
営業課 TEL (092) 472-2152

国内楽器営業本部 / 〒430 浜松市中沢町10-1
電子楽器営業部
クラブノーバ営業課 TEL (053) 460-3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION
ヤマハ株式会社